

お問合せ

遊佐町教育委員会

〒999-8301

山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211

電話番号:0234-72-5892

メールアドレス:yuzamaibun@town.yuza.lg.jp

(平成29年3月改訂)

鳥海山の湧水が残した

こやまざきいせき

小山崎遺跡

山形県遊佐町



1 小山崎遺跡の位置



小山崎遺跡

▷ 鳥海山南麓の小山崎遺跡

小山崎遺跡は山形県の最北、秋田県に接する遊佐町吹浦地区に所在します。

遺跡からは東に鳥海山、南に月山を望むことができます。

すぐ近くには、サケの遡上^{そじょう}で知られる湧水の川「牛渡川」、国指定史跡鳥海山の区域内にある信仰の泉「丸池様」があり、この辺りは、古くから自然への信仰が厚い特別な地域でした。

▷ 縄文の泉「丸池様」

現在でも信仰の対象になっている丸池様は、調査の結果、縄文時代から存在したことがわかっています。



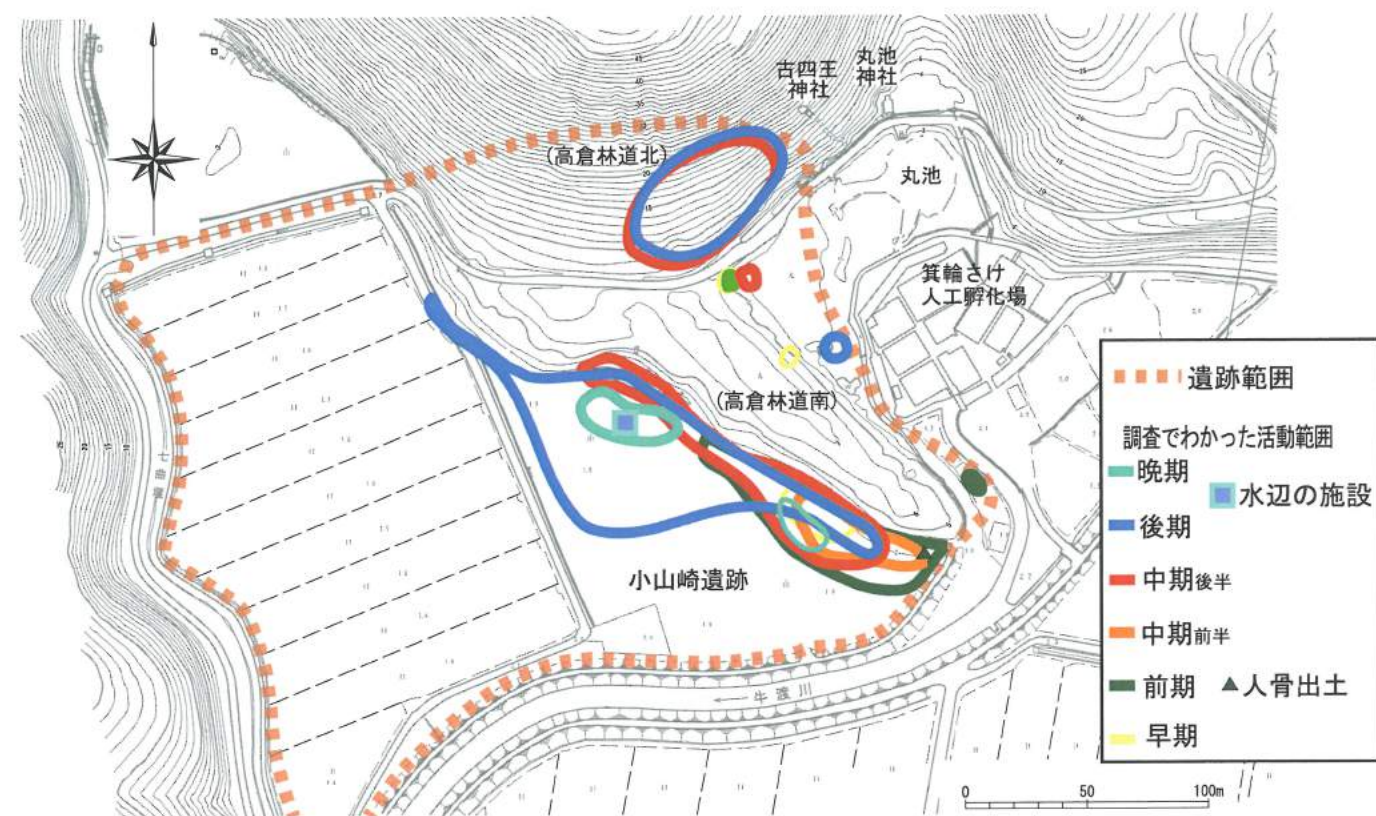
丸池様



鳥海山 2,236m

2 環境の変化と活動範囲

▷ 鳥海山南側の裾野^{すその}と平地が接するところ、その裾野には小山崎の縄文人が暮らした住居群が残っており、平地は低湿地^{ていしつち}で動物の骨・木材・種実までもがとても良好な状態で出土します。調査結果から各時代ごとの様子を見てみましょう。



▷ 約7,500～7,000年前（早期）

当時は今よりも暖かかったため、遺跡周辺は海水が入り込む（縄文海進^{じょうもんかいしん}）、潟湖^{せきこ}でした。

そのため小山崎に最初にやってきた縄文人は遺跡東側の小高い場所で活動していました。

▷ 約5,000年～4,000年前（中期）

中期終わりの気温が低くなり、海水がほぼ現在の位置に退いた頃、遺跡の北側の斜面に住居を構えるようになります。水辺の施設を作り始めるのもこの時期です。

▷ 約3,000年～2,300年前（晩期）

水辺の施設は継続して利用していますが、徐々に縄文人の活動の痕跡は見えにくくなっていきます。彼らはこの時期を最後に新たな地へ移動したようです。

▷ 約7,000～5,000年前（前期）

早期末に最大に達した海進の影響で干潟^{かんせつ}が残りこの時期にシジミ主体の貝塚が形成されます。また、発根をおさえるために先端を引きちぎったドングリ（コナラ）もまとまって発見されました。

▷ 約4,000年～3,000年前（後期）

中期とほぼ同じ場所に住居を構え、低地に本格的に進出し、水辺の施設をつくり始めます。

3 貝塚と、発見された人骨

— 約6,000年前 —



貝塚

現代でいう「ゴミ捨て場」であり、食べかすや壊れた道具などを捨てていました。しかし、単なる捨て場ではなく、自然の恵みや道具に感謝し、供養と再生を祈った「もの送りの場」でもありました。

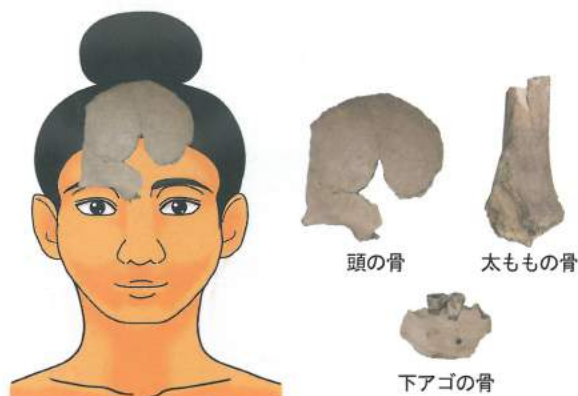


人骨からわかる小山崎人の食生活

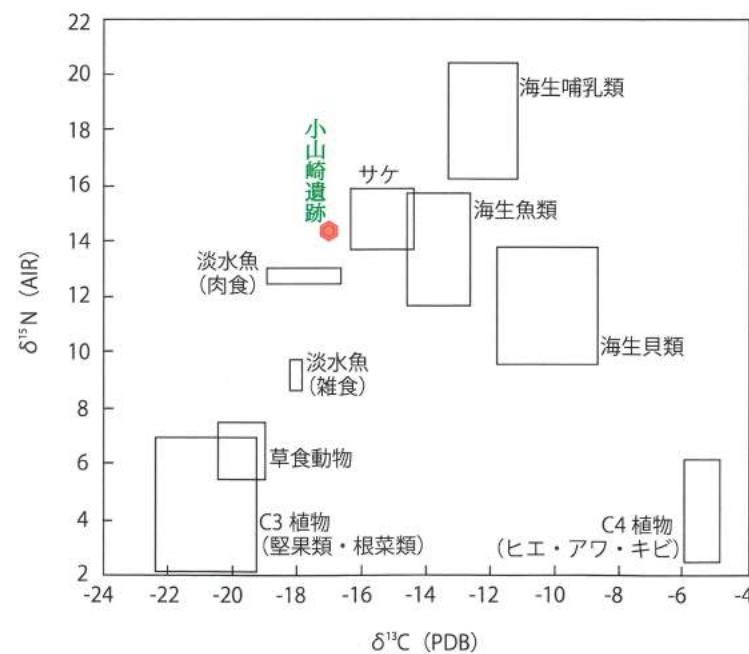
人骨を調べることによって、死亡するまでのおよそ10年間に食べていたものを知ることができます。

小山崎の縄文人は、植物や動物など様々なものを食べていました。

今回人骨を分析した結果、その中でも海産物を多く食べていることが分かりました。



▷ 貝塚の下から発見された人骨



4 山際の住居群 — 約4,200年～3,000年前 —

▷ 丸池様の北西斜面地からは、小山崎の縄文人が暮らした住居群が見つっています。

住居跡の発見された斜面は、斜度16度となっています。

急な地面を切土し、平らにならしてから 竪穴住居 を建てました。

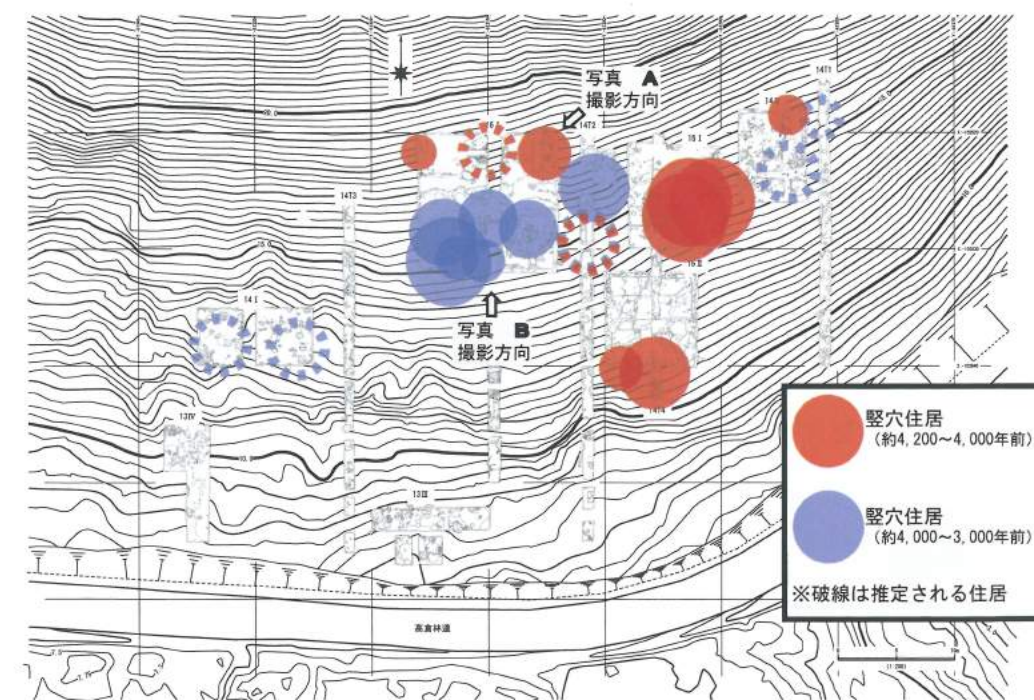
写真 B



写真 A

発見された住居群の位置図

住居跡はいくつも重なっていて、この狭いエリアで建て替えながら、断続的に暮らしていたことがわかりました。



たてあなじゅうきよ 5 竪穴住居の暮らしと様々な道具 - 約4,200~3,000年前 -

▷この絵は発掘調査の結果や民俗例から小山崎人の生活の様子を復元したものです。
 当時、彼らは地面を掘りくぼめて屋根をかけた^{たてあなじゅうきよ}竪穴住居に住んでいました。
 屋根には土を被せていました。夏は涼しく、冬は暖かったようです。

▷シカの骨で作られた道具

シカの角は様々な製品に加工されました。
 写真は魚をつくヤスと、釣り針です。



▷石斧(いしおの)

金属のない時代、石を磨いて斧を作り、住居を建てるための木材を加工しました。



▷石匙

携帯ナイフとして使われていました。
 赤い囲み部分には、紐を巻き付け接着した、アスファルトの跡が残っています。



漆が固まって残った土器
 漆もアスファルトと同じく
 接着剤として使われること
 もありました。



^{ひだな}火棚にはクリ・ドングリ・クルミなどの木の実を置き、牛渡川
 からとれたサケも吊るされています。
 秋のうちにとったこれらを乾燥させたり燻したりすることで、
 保存食としていたようです。

▷流れ着いたココヤシの実

海岸で拾った実を持ち帰り、容器として利用したと考えます。



ココヤシの実
 (破片、外側)

ほぼ完全な形のココヤシ容器



石川県・中屋サワ遺跡出土
 (写真提供：金沢市教育委員会)

(イラスト：木山由紀子)

▷火種置きと、石で囲った^{いろり}囲炉裏

土器を土に埋め込んだ^{ひだねお}火種置きと、煮炊きのために火を焚く、
 石で囲った^{いろり}囲炉裏がありました。



火種置きに使われた土器

6 水辺の施設 -約3,500年前-

▷小山崎遺跡の水辺の施設は、これまで他の遺跡で発見された例についての考え方では説明しきれない施設です。



▷敷石の中から発見された石皿

石皿の上に^{ふんさい}粉碎に使われた磨石^{すりいし}が乗っている状態で発見されました。



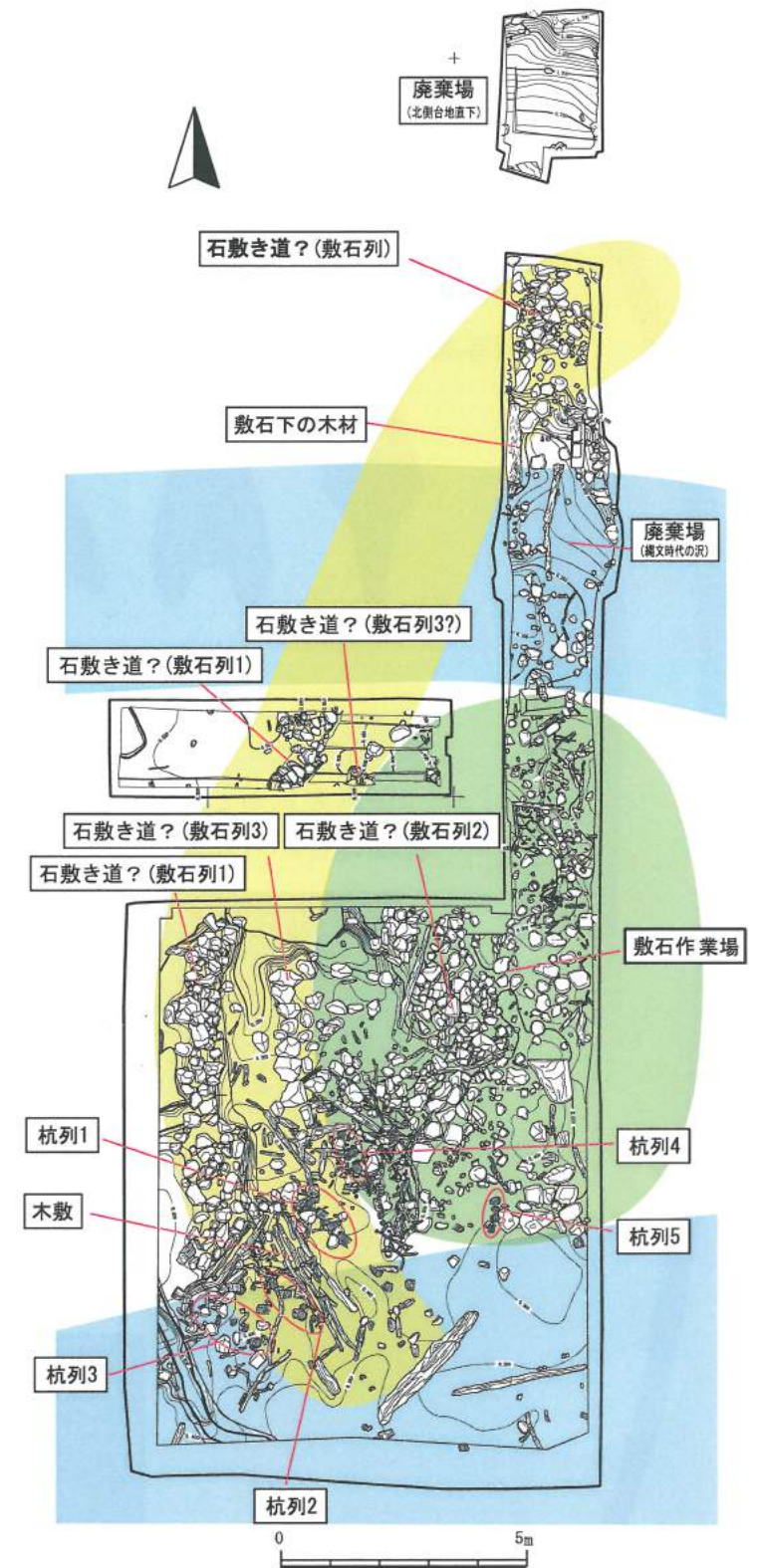
▷作業場

川原石の平らな面をそろえて敷き詰めた水辺の足場・作業場です。



▷杭列

太いクリ材の杭を並べて打ち込んでいました。
石を敷いた道と考えられる敷石列の^{ろかた}路肩を止めていたのでしょう。



青色の範囲には、牛渡川の支流が流れていました。そのような環境の中で、黄色の範囲の敷石列は、集落と水辺をつなぐ道の役割を果たしていました。緑色で示されている範囲は敷石の作業場です。

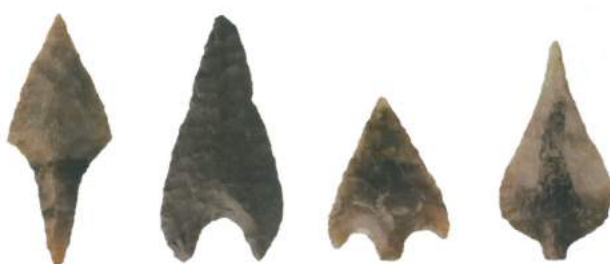
7 狩りと弓

▷小山崎遺跡からは様々な動物の骨が出土します。中でも最も多く発見されるのは、イノシシとニホンジカです。それらを主対象とした狩りが、一般的に行われていました。

▷弓

左は小山崎遺跡で発見された弓です。
赤い丸の部分には、弓筈(弦をひっかけるところ)が残っています。

拡大写真



▷石鏃

弓矢や鉾の先端にとりつけて使用しました。

▷イノシシとニホンジカの骨

写真を見ると、水が染み出していることがよくわかります。
低湿地という環境があるからこそ、このように良い保存状態で出土しました。



下アゴの骨(イノシシ)



下アゴの骨(ニホンジカ)

8 縄文時代のサケ漁

▷小山崎遺跡のそばを流れている牛渡川は、現在も毎年たくさんのサケが遡上しています。秋になると決まってのぼってくるサケは、現代の生活でも欠かせないものですが、それは小山崎の縄文人にとっても同じで、彼らの暮らしを支えていました。

▷魚叩き棒



小山崎遺跡出土の木製品

現在使われている魚叩き棒(鮮度を保つためにサケの頭を叩く道具)によく似た形のものが発見されています。



現代の叩き棒

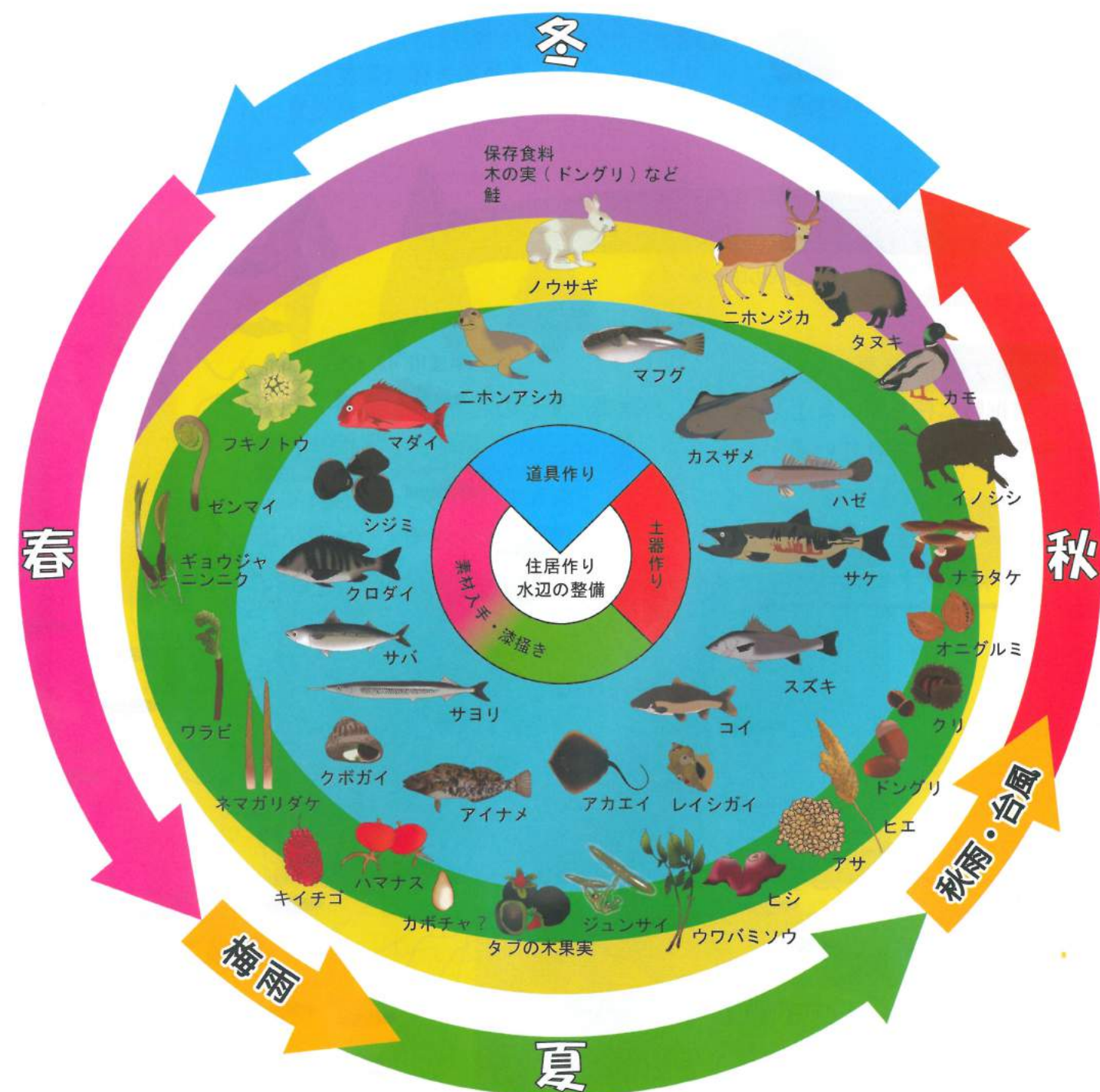
▷サケの歯と骨

発掘時に持ち帰った土を水洗いした結果、サケの骨や歯が発見されています。



9 小山崎くらしのカレンダー

▷下の図は小山崎遺跡^{こやまさきいせき}周辺の環境と出土品をもとに、住んでいた人々が季節ごとにどのようなものを食べ、どのような暮らしをしていたかを復元したものです。

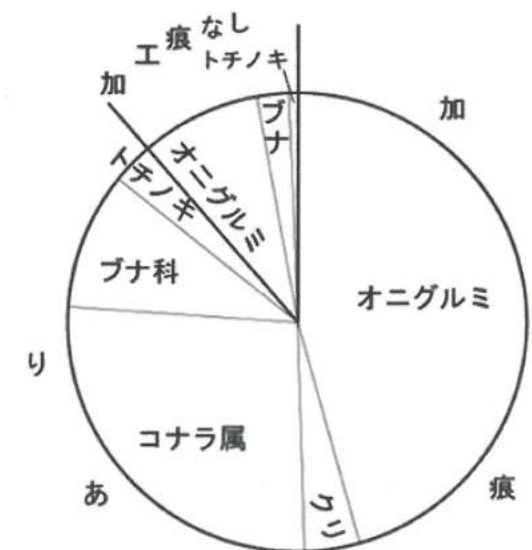


縄文人は、狩りや木の実拾いの合間に道具や家を作ったり、食料が少なくなる時期に備えて保存食を作ったりと、季節に応じた計画的な生活を送っていました。

10 縄文時代の植物利用

▷約6,000年前の土から発見された種

まとまって発見されたドングリ(コナラ)と、カボチャによく似た種が注目されます。コナラは根が出ないよう先端が引きちぎられ、長い期間の保存が出来るよう加工してありました。カボチャは中南米原産で、16世紀頃日本に渡来したとされてきましたから、はるかに古いものが見つかったことになります。



特徴的なもの



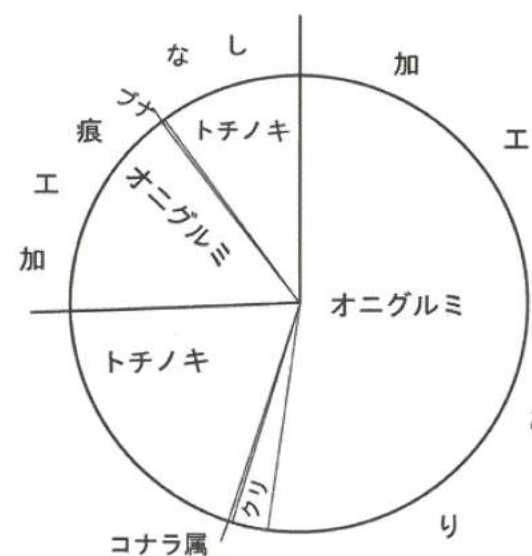
最古のカボチャ近似種



先端が引きちぎられたドングリ(コナラ)

▷約4,000年～2,300年前の土から発見された種

栽培植物^{さいばいしょくぶつ}のアサや、栽培の可能性のあるヒエ・ゴボウ^{きんじゆ}近似種なども発見されました。



特徴的なもの



11 祭りと祈りの道具

▷土偶

土偶は、人間の特に女性を模して作られた祭祀のための土製品です。



▷動物形土製品

動物をかたどった土製品も発見されています。縄文人の自然を敬う気持ちがあらわれています。



表 裏
(所蔵：山形県立博物館)

▷漆塗り土器

赤と黒の漆で塗り分けられ、コントラストが印象的です。



▷糸玉

糸に漆をしみこませて赤漆を重ね塗りし、編み上げられた装飾品です。



(写真提供・所蔵：山形県立博物館)

▷耳飾り

耳たぶに大きな穴をあけ、その穴にはめ込んで使用しました。



▷装身具

ヒスイなどに穴をあけたペンダントや、動物の骨から作られたビーズもあります。



ペンダント ビーズ

小山崎遺跡からわかること



上空からみた遺跡とその周辺

▷小山崎遺跡からは「類例のない構造の水辺の施設が見つかったこと」や「最古のカボチャと思われる種の発見」、「サケを食べていたと考えられること」などたくさんの興味深い発見があります。

▷中でも最も重要なことは、この遺跡が全国でも稀な動物・植物の両方が残る遺跡であることです。単に「何を食べていたか」「どのように利用していたか」だけではなく、「動植物をどのくらいの割合で食べていたか、利用していたか」という、縄文時代の自然と人との具体的ななかかわりについて明らかにすることができます。

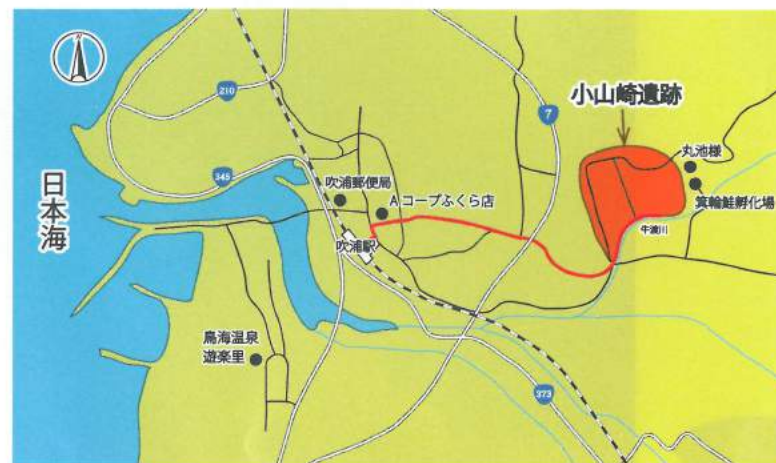
▷3,800年以上もの長い間、遊佐町の自然と共に歩み続けた小山崎の縄文人（祖先）の文化を、現代社会に伝えていくことのできる貴重な遺跡なのです。



現地での説明会の様子

▷赤漆塗り木製台付舟形容器

何層にも漆が塗られており、縄文の漆器製作の技術の高さを示しています。



アクセス

所在地：山形県飽海郡遊佐町吹浦字七曲・七曲堰東・柴燈林 ほか

〈車で〉
日本海東北自動車道 酒田みなとI.C. から30分

〈電車で〉
JR羽越本線 吹浦駅から車で5分